

令和7年度第6回運営推進会議報告内容

議題

① 入居状況について

入居状況

令和8年3月1日時点の入居者数

男性3名 女性6名 合計9名

平均年齢85歳 男性80歳 女性88歳

平均介護度2.7 男性3.3 女性2.3

② ヒヤリハット、事故、苦情報告などについて

1月（前回推進会議以降） 無し

2月 事故報告1件 ヒヤリハット3件

3月 事故報告1件 ヒヤリハット2件

2/17 7:45 M. H様 女性 91歳 事故報告

朝食後夜勤者が点眼対応を行い、昼食後の薬ケースに戻すべきところを朝後薬ケースへ戻してしまいました。夜勤者が点眼対応を行った事が分からず、別のスタッフがもう一度点眼を行ってしまいました。

点眼薬対応はスタッフによりダブルチェックを行っていなかった為、今後は服薬と同様にスタッフでのダブルチェックを行っていく事としました。

2/26 7:10 H. H様 女性 75歳 ヒヤリハット報告

朝食介助時、ソフト食のカモ団子をスプーンで口に入れた時、喉につかえた様な状態が見られた為、食事を中止しました。

顔色や唇の色の変化は見られませんでした。苦しそうな表情があり、吐き出そうとする様子が見られました。

H. H様はここ数カ月、食事が思うように進まなく、食事途中で目をつむってしまったり、食事を口に含んだまま食事が止まってしまう事があるため、スタッフは注意しながら食事介助を行っていますが、この際は食事を召し上がる前には、声掛けし目を開け自分から口を開けていた為、食事介助を行いました。飲み込みには時間がかかっていました。

改善策として、食事の合間にはこまめに水分を摂っていただく、口の中へ運んだ際次の食事を召し上がっていただく時に口の中の確認を行う、スプーンで唇を刺激することで咀嚼を促す、おかずの固さで咀嚼が不安になる事がある為お湯を足し柔らかくするなどとしました。

2/26 9:15 Y. K様 男性 74歳 ヒヤリハット報告

水分補給声かけの為居室へ伺うとY. K様の姿が無く、向かいにある浴室の扉が開いていたのに気がつき、中へ入るとお風呂の蓋の上で横になられていたのを発見しました。スタッフを呼び、2名で起こして居室へ誘導しました。今回の原因として、脱衣所の扉を開けたままにしてしまったこと、見守りセンサーの確認不足があった為、タブレットの見守りセンサーを常に意識し業務にあたる事、浴室の扉は廊下からの入り口と脱衣場から浴室に入る入り口扉の2か所閉める事としました。

2/27 15:00 Y. K様 男性 74歳 ヒヤリハット報告

キッチンにペーパータオルに包まれたY. K様の眠前薬があるのを発見しました。昨日の夜勤者、遅番者に確認をすると、良く休まれていた為眠前薬を服用しなかったが、夜勤者から翌日早番者に引継ぎを忘れてしまった事、眠前薬の破棄を忘れキッチンに置いたままにしてしまった事が分かりました。夜勤者から早番者への引継ぎをしっかりと行う事、服用しなかった開封後の内服薬は服用できるまでは薬箱の中、服用できなかった際は破棄することを周知しました。

3/3 15:40 H. H様 女性 75歳 ヒヤリハット報告

おやつ介助時、きな粉プリンを口の中に入れたがむせてしまいました。タッピング、口腔内洗浄を行い粘りのある痰が出てきました。きな粉プリンを食べ始めている時には痰は絡んでおらず、プリンを食べている最中にむせ込み始めてしまいました。対策としては、先日同様水分補給しながら時間をかけて介助を行う事、口の中をよく確認しながら介助にあたる事を再周知しました。

3/3 17:35 M. H様 女性 91歳 ヒヤリハット報告

夕食時、食事中に手が止まり無言でおられた事に職員が気づき声掛けすると「詰まった」との返答がありました。しばらくタッピングにて様子を見ました。喘鳴はなく、白色の喀痰が見られました。鯖の煮汁が少なくパサついている感じがした事や、添えのインゲン豆もスジがあり、噛み切るには硬い感じがするなどの気づきがあり、改めて食材をよく確認し食べにくそうなときはハサミで細かくカットをする事を再周知しました。

3/10 7:45 H. H様 女性 75歳 事故報告

朝食介助時、オムレツを食べている際、飲み込みが悪くなり食べ物が引っ掛かった感じとなりました。唇の色がブドウ色になられた為すぐにタッピング対応

しました。すぐに唇の色もピンク色に戻り状態は落ち着きましたが、食事は中止しバイタル測定、その後口腔ケアを行いました。

食事中に、首が後ろに反り返ってしまう事や目をつむっている事がある方なのですが、眠気からなのか、そうでないのかが未だ判断に迷うところがあります。現在は食事中にほぼ目をつむってしまう状況である為、今のところ効果的である、口元をスプーンで刺激し咀嚼を促す事、口の中に食事が残っていないかの確認、姿勢の反り返りは都度姿勢修正することで目を開けていただく事を促していく、水分を食事の合間に小まめに摂っていただく、食事形態は湯せんで硬すぎてしまった際はお湯で戻す、おかずを崩し過ぎず、噛んで飲み込めるようにする事をスタッフ間で再確認しました。